

地方創生カフェ通信

Vol.1

地域

を楽しむ。
で学ぶ。
で活躍する人になる！



もくじ

災害ボランティア活動の状況 1 令和2年7月豪雨災害と大学生
菊池市佐野地区での過疎集落支援活動 8 耕作放棄地と向き合う
2020年度地域ブランド総選挙 13 熊本県南地域の地場産業「球磨焼酎」を考える
ボランティア活動を考えている後輩へ 16 先輩たちからのメッセージ

被災した八代市坂本町の線路（2021年2月）



災害ボランティア活動の状況

令和2年7月豪雨災害と大学生

令和2年7月豪雨災害の概要

7月3日から31日にかけて、日本付近の停滞した前線の影響で、温かく湿った空気が継続して流れ込み、各地で大雨となって人的被害や物的被害を引き起こした。特に九州では7月4日から7日にかけて記録的な大雨となった。また、岐阜県周辺では7月6日から激しい雨が断続的に降り、7日から8日にかけて記録的な大雨となった。

その後も前線は本州付近に停滞し、西日本から東北地方の広い範囲で雨の降る日が多くなった。特に7月13日から14日にかけては中国地方を中心に、27日から28日にかけては東北地方を中心に大雨となって各地に被害をおよぼした。



被災した店舗の泥かき（7月人吉市）



ボランティア活動先は住宅だけではなく、被災した田畑や店舗など、ボランティアセンターからの派遣が期待できない活動に参加することもありました
(7月球磨村)

これからの生活再建に必要な建物をきれいに(球磨村) 何でもないときの集落と球磨川の高さを見てみると、本当にこの川が氾濫したんだろうか…と何度も考えてしまいました。

大雨等の状況 (3日00時～31日24時)

■ 主な一時間の降水量 (アメダス観測値)

鹿児島県	鹿屋市	鹿屋	109.5 ミリ	6日	6時24分まで
鹿児島県	日置市	東市来	98.5 ミリ	3日	21時35分まで
熊本県	天草市	牛深	98.0 ミリ	4日	3時45分まで
長崎県	大村市	大村	94.5 ミリ	6日	15時17分まで
鹿児島県	薩摩川内市	八重山	94.5 ミリ	3日	21時39分まで
鹿児島県	志布志市	志布志	88.0 ミリ	6日	9時44分まで
熊本県	葦北郡芦北町	田浦	86.5 ミリ	4日	6時11分まで
鹿児島県	鹿屋市	吉ヶ別府	86.0 ミリ	6日	8時34分まで
長崎県	雲仙市	雲仙岳	85.5 ミリ	24日	5時22分まで
長崎県	長崎市	長浦岳	85.0 ミリ	6日	15時14分まで

全国の被害発生状況 (2020年12月22日時点)

【土砂災害発生件数】 961件

内訳 (土流等:178件 地すべり:74件 かけ崩れ:709件)

【被害状況】

人的被害 : 死者 **16名**

家屋被害 : 全壊 : **37戸** 半壊 : **27戸** 一部損壊 : **161戸**

■ 参考文献 (2020年12月22日アクセス)

令和2年7月豪雨による土砂災害発生状況(12月22日現在)

https://www.mlit.go.jp/river/sabo/jirei/r2dosha/r2_07gouu_201222.pdf

災害をもたらした気象事例

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2020/20200811/jyun_sokuji20200703-0731.pdf

国土交通省 気象庁

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2020/20200811/20200811.html>



熊本 YMCA が支援している旧多良木高校に開設された避難所運営をお手伝い（多良木町）
 コロナ感染症の拡大もあり、これまでの避難所運営とは様相が異なり、教室まで利用されていました。

熊本創生推進機構で ボランティア登録した学生の状況

登録者数

- ・現地活動 **127** 人
- ・後方支援 **63** 人(現地活動との重複含む)

活動者数

- ・現地活動のべ参加学生数 **106** 人
- ・後方支援のべ参加学生数 **23** 人
- ・宿泊ボランティア活動のべ参加学生数 **5** 人
 (2021年2月から実施)

活動内容

- ・災害ボランティアセンターを通じた被災家屋での泥かき、片づけ（芦北町、人吉市、球磨村）
- ・球磨焼酎酒造組合や卸間屋さんからの依頼による、酒蔵や店舗での泥かき（人吉市、球磨村）
- ・旧多良木高校での避難所運営支援（熊本 YMCA 様に協力）
- ・球磨村での宿泊災害ボランティア（OPEN JAPAN 様受け入れ）
- ・八代市坂本町での環境整備や情報発信などの集落活動

2020年度の災害ボランティア活動は、日本財団学生ボランティアセンター（Gakvo）との連携で実施しました。

コロナ禍でもできる支援を考える

地域に出ることだけがボランティア活動ではありません。マスクを必要としている人や施設に送ることも。水害被害に遭われた球磨村役場の職員の方に、メッセージカードを添えたマスクもお届けしました。



距離を取りながらマスクの製作



市内の施設や被災自治体の職員の方へ

「コロナ」のために活動が難しいと感じた点

コロナが流行ってボランティア事情は大きく変わったと思います。コロナでなくなったボランティアはたくさんありました。フェスやマラソン大会などのイベントのボランティアや、長期休みを利用した、宿泊を伴う離島や発展途上国でのボランティアです。そのことで長期的なボランティアの募集が目立つようになり、ハードルとなって、気軽にボランティアをすることが難しくなっているように感じました。大学の授業やアルバイトを考慮して、参加できる単発のボランティアを探すことが難しかったです。

また、コロナの影響で募集されているボランティアにも変化がありました。活動時のマスクの着用の義務や、活動地域によってはPCR検査を受けることが条件となっていたことです。事前に検査を受けることが活動に参加することを難しくさせていました。新型コロナウイルスの影響下では「支援者が感染を広げないこと」「支援者の安全を確保すること」が根底としてありました。ソーシャルディスタンスを保つことは当たり前のようにになりました。接触感染で助けている側から、逆転してしまう可能性があるからです。危険と隣り

合わせのボランティアになりかねず、オンラインのボランティアも募集が増えたように感じました。私は参加する機会がなかったのですが、被災地支援は、より、徹底されているようでした。対策は、現地に行ってから始まるのではなく、そして、被災地を離れたら終わりというわけでもありません。つまり支援活動とは、その準備段階から始まり、支援がおわって被災地を離れたあとの、その後の報告までのプロセスがあります。特に、この新型コロナウイルス感染症影響下では、ウイルスを持ち込まない、拡大させない、持ち帰らないという原則に基づき、準備段階から、被災地を離れ2週間後の体調報告までが支援活動なのだということが、拘束条件となり、参加を躊躇させてしまっているように感じさせました。自分や周りの人たちの健康を守るため、被災地に入ることが決まった日から、できれば被災地入りの2週間前から、被災地を離れた2週間後までの間、健康管理表と活動記録が求められるようでした。人吉の豪雨被害のボランティアも、募集する地域が限られ、参加条件の厳しさを感じました。

(工学部 詫間菜月)

宿泊災害ボランティア

一般社団法人 OPEN JAPAN に引き受けていただき、球磨村での活動をしています。いまだ泥かきや家屋の清掃をしているところがあります。



- ①令和2年7月豪雨災害が起こり、自分も地元の大学生として何が貢献したいと考えたから。
- ②地元の人やボランティアの人と話げできたこと。また、自分の作業によって住宅が再建に向けて1歩進んだと感じたこと。
- ③ニーズの把握をすること。自分で「これくらいいいや」「もう要らないだろう」と思ったものが、被災者の方にとっては重要なこと・ものである場合がある。「誰かのため」の行動で、嫌な思いをさせてしまわないようにすること。
- ④「ニーズを聞き取る」という手法を、他のボランティア活動や就職で生かしたい。
- ⑤ボランティアをすることは相手のためでもありますが、それを通して自分のためにもなると思います。また、最初は分からないことが多いかもしれませんが、助けてくれる人も必ずいます。迷っているなら、ぜひ1歩を踏み出してみてください。



- ①活動参加のきっかけ
- ②楽しかったこと
- ③難しいなあと思うこと
- ④地域活動での経験をどんなことに活かしたい?
- ⑤ボランティアや地域活動に参加しようか迷っている後輩へ



(写真：崇光寺住職撮影)

被災後、被災者は分散避難（どこに皆さん行っているのか分からない）され、2020年11月13日現在でも5軒ほどしか自宅再建の意思が確認できていない（総代談）状況でした。

2020年11月から、崇光寺のみなさんと相談しながら、地域の環境整備を始めました。

地区のみんなが帰ってきたときのために、集まれるといいよね。そんな会話から始まった活動です。

山道のお地藏さんに続く道を整備。

昔は、花見などで住民が集まった場所だそうです。

八代市坂本町での地域活動

令和2年7月豪雨災害で、坂本地区も大きな被害を受けました。

60軒ほどの集落（被災前は20軒ほど居住）で、集落に肥薩線の坂本駅がある中心部でした。

明治31年から十條製紙坂本工場が稼働、昭和63年廃止。昭和35年ころの坂本駅の1日の乗降客が約3,000人で、うち8割が製紙工場関係者という、以前はかなりのぎわっていた地域になります。



被災当時、山間の地区であるこの地域ではラジオの情報がうまく入りませんでした。被害状況などは、遠方に住んでいる娘や息子たちから携帯に届くものばかりでした。

「なんで遠くにいる人たちの方が、いろいろ情報を持っているんだ」そんな何とも言えない気持ちと不安でいっぱいだったそうです。

そんな状況を変えていくため、2021年度からは地元のラジオ局と協力して携帯を使ってラジオを日ごろから聞けるような取り組みを考えています。仮設住宅にいる方、親せき宅に避難されている方に坂本の情報が届くといいなあ。そして、時々坂本に集えるようになるといいなあ。

そんな活動を進めています。

坂本の活動で、山の清掃をしてお地藏様や山道がきれいになったことで地域の方々が喜んで下さったことが嬉しかったです。どの活動でも、活動の後に「助かった」や「ありがとう」などの声をいただけることがとても嬉しいです！ (参加学生の声)



菊池市佐野地区での過疎集落支援活動

耕作放棄地と向き合う

佐野地区での活動は、熊本地震までさかのぼります。

当時、農業ボランティアとして菊池市での活動を行い、その時のご縁で現在まで活動が続いています。

熊本地震直後は、被災した農地の復旧に向けたお手伝いなどでした。現在は、過疎化が進むこの集落の耕作放棄地対策などを行っています。



冬の活動は、剪定した栗の枝の撤去です。

春の草刈りの時に、機械に巻き込まれないように。また、大きな枝など今のうちに剪定してしまいます。

搬送した枝はその場で焼却。

毎回、焼き芋を焼いたり、焼きマシュマロを作ったり。

コロナの影響で、人と接することが少ない中、山の中での活動は体力的にはきついです、その分楽しみも・・・。





地域の方との交流も楽しみ
の一つ。

地域の伝統料理「栗団子」
を習ったりと、食文化に触
れることから過疎を考える
ことも。



菊池市佐野地区で活動する学生より



- ①サークル活動でボランティアが出来ることに一目惚れ？した。また、いくつかあるボランティアサークルの中でも農業に密接な活動が出来ることに魅力を感じた。
- ②農業という自分の知らない世界を体で感じ取れること。そして、そこで得たモノを仲間と共有できること。
- ③活動を通して個人の目標を設定すること、あるいは何を学んだかを把握する事。
- ④もちろん仕事や趣味など将来に活用したい。個人的にはお金を絡ませて農業やボランティアを考え行動してみたい。
- ⑤アットホームな雰囲気誰でも楽しくボランティア活動が出来ますよ。ぜひ皆さんの参加をお待ちしてます！
(大屋耶馬斗)



- ①大学のホームページで紹介してあったのを見つけた。農村でのボランティアは個人ではなかなか行けない珍しいものだと興味が湧いたから。
- ②ボランティア現地の人の優しさに触れられること。今まで体験したことのない作業ができること。自分が食べているものがどのように手間をかけて作られているのか知れること。
- ③農業に関しての知識がないため、言われたことしかできないこと。
- ④自分の食への考えを改めるきっかけにしたり、農村の地域の未来について考えることに生かしていきたい。
- ⑤ボランティアに参加する人は、学年性別関係なく、皆友だちのように話しています。一人で参加するのを不安に感じている人も、一度参加してみてください！
(貞明春歌)

- ①友人からの誘いです。
- ②地域の方のお話を聞くこと。普段と違う環境で活動をするので、とても新鮮でした。
- ③なかなか自分から話しかけることが苦手でしたが、はじめてでも話しかけてくれたので、楽しく過ごせました。
- ④社会貢献について考えるきっかけとなりました。今までは自分のための勉強や時間だと思っていましたが、自分ができることが少しでも地域のためになることが心地良いものだと感じるようになりました。
- ⑤新しい発見が沢山待っていると思うので、ぜひ参加してみてください。(東)

- ①活動参加のきっかけ
- ②楽しかったこと
- ③難しいなぁと思うこと
- ④地域活動での経験をどんなことに活かしたい？
- ⑤ボランティアや地域活動に参加しようか迷っている後輩へ



- ①サークルのLINEにアップされる活動中の写真を見たことがきっかけです。乗換の様子が楽しそうで興味が惹かれました。
- ②普段体を動かす機会があまりないので、力仕事をするのは良いストレス発散になりました。また、年代の違う方や初対面の方も多いい中で、世間話をしつつお手伝いが上手くいくように協力し合えるのは、充実感も得られてとても楽しく感じました。
- ③人見知りな性格が災いし、最初はなかなか申し込む勇気が出ませんでした(笑)ですが、いざ参加してみるとフレンドリーな方ばかりで安心しました！他に楽しかったことは、日程の調整です。佐野の場合申し込みは1か月前に行われていますが、先にあるアルバイトやテストの予定もよく考えて、余裕ある活動を心がけています。
- ④自己肯定感を高めることに活かしたいと思っています。実際、活動後に現地の方の喜んだ顔を見た時、自分も誰かの役に立つことが出来るのだと嬉しく思うと同時に、自信にも繋がったと感じました。
- ⑤参加するのは最初はなかなか勇気がいりますよね。周りの人とちゃんと話せるのか、とか、足手まといにならないか、とか…。私も最初は緊張していましたが、一度思い切って申し込んでみると、遠足のような、意外とアットホームな雰囲気の中で楽しく活動することができ、それからほとんど参加するようになりました。1人だとなかなか積極的になれない方は、まずお友達も誘って行くのもアリだと思います！無理のない範囲でいっしょにボランティアを楽しめたらうれしいです！
(上村明日香)

- ①楽しそうだったのと、ボランティアにかっこいいイメージがあったからです。
- ②毎回楽しいです！メインの活動も楽しいのですが、活動の合間にしいたけ狩りをしたり焼き芋を食べたりお話ししたり川で足を洗ったりなどアウトドアのような楽しさもあります。
- ③継続して参加する事、道具の管理、学生以外の方に覚えてもらう事です。
- ④活動を通して得た経験は、似た状況の私の地元を活性化する事に役立てる事ができるのではないかなと考えています。初対面の人と協力する事も多く、これらの経験は仕事でも活かせると思います。
- ⑤はじめでは怖いと思いますが、1人で参加しても、協力している内にいつの間にか仲良く話せるようになりました！D-sevenでは引率の先生も居てメンバーは熊大生同士で話しやすいので、活動が不安な方はまずD-sevenからボランティアをはじめてみてください！一緒に活動しましょう！
(久保田万尋)

- ①教養の集中講義ボランティア実践を受けたこと
- ②農家さんからいただいた食材をみんなで食べること
- ③初めての農作業に取り掛かること
- ④これから研究活動に取り組んでいくなかで、回りの人と協力しあうときに生かしていきたい。研究活動そのものでも、自分の専門分野で地域支援の役に立てることを見つけて取り組みたい。
- ⑤私は初めてボランティア活動に参加したとき、知り合いの人はゼロの状態でした。自分の仕事量でホントに役に立っているのか、回りの人たちとのコミュニケーションや協力はうまくできるか、など様々な不安がありました。しかし、私と同じように初参加のひとは何人かいて、特に緊張することはありませんでした。また、普段からボランティアに参加している人たちは優しく、声を掛け合いながら協力して活動に取り組むことができます。そして、普段教科書やニュースでしか聞くことの無いような問題に実際に向き合う機会が持て、自分の見識が広がった気がします。これからボランティアに参加しようか迷っているみなさん、心配は無用です！！一緒に楽しく活動しましょう♪（中村真子）



- ①D7が運営しているTwitterを見て、活動に興味を持ったことがきっかけです。
- ②活動しているときに、地域の方とお話することがとても楽しかったです。また活動の合間に焼き芋を作ってみんなで食べたことも楽しかったです！
- ③コロナウイルスの流行に伴い活動を制限されることと、ボランティアの活動が月に1回なのでその地域の人と仲を深めることが少し難しいなと思います。
- ④私が所属している学部が、地域振興のような分野のことに今関わるので今後の学びに生かせるといいなと考えています。
- ⑤様々な活動ができるだけでなく、友人も増えるので楽しめると思います！少しでも興味があったら気軽に参加してみてください！（古賀美有）





Q人吉・球磨地方二十八蔵元 焼酎詰合せ
くまもと

球磨焼酎

全蔵物語

KUMA SHOCHU

球磨焼酎酒造組合

熊本県南地域の地場産業「球磨焼酎」を考える

2020年度地域ブランド総選挙に出場しました。

ミッションは「20代女子を球磨焼酎の虜にする！」

焼酎そのものが若者に消費されないこの時代に、若者を消費者のターゲットにするにはどんな工夫が必要か。

球磨焼酎酒造組合と一緒に参加し、予選通過。九州ブロックの代表として、決勝戦ではビジネスプランの提案まで行いました。

「全国地域ブランド総選挙」は、地域団体商標制度の普及とさらなる活用促進を目的に特許庁が開催している事業です。総選挙では、地元の学生が地域団体商標権者等を取材し、取材に基づく地域商品やサービスの魅力を Instagram® 上で発信するとともに今後の新商品や新ビジネスのアイデア、PR方策等を競い合います。
(地域ブランド総選挙 HP <https://www.chiiki-brand.com/>)



焼酎趣向調査会で、学生が考案したカクテルをお披露目。味や飲みやすさについて、感想を集めた。



球磨焼酎がフレーバータイプで4つに分類されているなど、参加者にとっては知らないことだらけ。関わることで興味を持ってもらえるように。



球磨焼酎のラベルがどれも
素敵。ステッカーやグッズ
など、買いたくなるデザイ
ンを考える。



PR 動画作成に向けた取材 & 撮影。被災状況に言葉をなくすことも。それでも、何かの役に立ちたい。若者にできる球磨焼酎の復旧とは。



決勝戦は遠隔でビジネスプランのプレゼン。優秀発掘賞を受賞しました！



ボランティア活動を考えている後輩へ

2020年度キャリア科目53「ボランティア実践」を受講した学生の声です。「コロナだから」と活動できないことを悔やむのではなく、「コロナだからこそ」思いついたボランティア活動や、つながることができた人たちと、何か一緒に始めてみるきっかけにしてみませんか。

これから活動する後輩の皆さんのときは、コロナの状況がどうなっているのかまだまだ想像もつかないけれど、好奇心やこの授業をとっているからという理由からでも、是非挑戦してみたいです。人のためのボランティアの中で、気づいたら自分に得られるものが沢山あります。

私が活動した中で、ボランティア団体の代表の方にすごく印象深い言葉をかけられました。それが「ボランティアは自分のためにするもの」ということです。人のためだけに活動してはそれが義務に感じられて負担に感じるようになるということだそうですが、本当にその通りだと感じました。私の場合最初はボランティア実践の単位取得に必要なボランティア時間数を稼ぐという目的があってボランティアを始めました。そして人とかわる力をつけるためにこれからも活動に参加したいと考えています。だから「本当に役に立っているのか」と考え悩むようなことは、本当は必要ないのかなと感じました。ボランティアの目的は人助けじゃなく自分の成長だということに気づけたので、私の後輩にも「ボランティアは自分のためにするもの」ということを知っておいてほしいです。

私は災害ボランティアを中心に行ったが、他のボランティアにも参加してみたかったと今思う。これからボランティアを行う後輩にもっと様々なジャンルを経験することを進めたい。

これからボランティア活動に参加する後輩に伝えたいことは主に2つあります。1つ目は、私たちがボランティア活動を行うことができるのは、大学の事務の方・先生などいろいろな方々の支えがあるからだ（普段は意識していないと気付かないが、自分たちが誰かを支えようとしているように自分たちも支えられている）、ということです。これはボランティアに限らず研究室や就職先など様々な場面で大切なことだと思います。ボランティア実践の講義やボランティアサークルを通じて今後の後輩たちには、ぜひ後方支援の方にも参加し、自分なりに学んでほしいと思いました。

これからボランティア活動に参加する後輩には、1つの分野に縛られず、多様なボランティア活動に参加してほしいと伝えたいです。それぞれのボランティアで異なる発見があると思うので、多様なボランティア活動に挑戦してもらいたいです。また、ボランティアは支え合いで成り立っているのだということも伝えたいです。

ボランティアを必要としている方や、一緒に参加している学生同士でのコミュニケーションの大切さです。私自身活動に参加して最初の頃は初対面の人との会話に自信がなく、相手がどう思っているか不安になったことなどがありました。話してみるととても楽しく、協力して活動に取り組むことができました。よって、初めてボランティアに参加する人でも周りの人と自分からたくさん話をしていくと、充実した活動時間を過ごすことができるということを後輩たちに伝えたいです。

私がこれからボランティア活動に参加する後輩に使えたいことは、ボランティアという自主的な活動は、沢山の角度で発見が多く、とても有意義な活動であるということです。初めは、私は単位のために履修を考えていましたが、この活動がこれからの私に役立つと思い、これからも続けたいです。ボランティアを通して、今後に役立てていけるような経験を積んでいけたら良いなと思っています。

慣れていなくて、難しいことかもしれないけれど、積極的に自分から行動することを心がけてほしいと伝えたい。なぜなら、ボランティア活動はめったにない機会、普段関わることが少ない人との交流もあり、学ぶことが沢山あるからだ。せっかくボランティア活動に参加しているのだから、その時間を有意義にしなければもったいない。初対面の人との交流は、簡単ではない。だから、まずは、元気に挨拶するだけでもいいと思う。そうすれば、自然と打ち解けることができ、ボランティア活動の時間がより良いものになると感じる。

私は誰かの役に立ちたいと思ってボランティア活動に参加したけれど、活動を通して様々な人に出会えるし、参加しないと味わえないような体験もあるので、実際為になったなと感じたのは自分の方ではないかと思う。自分の利益になる体験ばかりなので、人の手助けをしたくて、且つ、成長したいと思っている人にはぜひ参加してほしい。

来年度この講義を受講される方が活動される時期は、私たちが直面していた状況よりも深刻になっているかもしれない。そして戸外での活動を行うことが厳しくなる可能性がある。その中で自分のできる範囲のことでできることをするためにはボランティアの情報に敏感になる必要があると思う。後輩たちには先生が紹介して下さるボランティア活動だけではなく、自分のできる環境などを分析して、自らサイトなどを探し情報をキャッチする必要があると思う。

こんなご時世ということもあり、中々思うような活動ができなかったが一つ一つの活動から学べることは非常に多かったように思う。普通の授業も大切ではあるが、自然や地域と密着することで得られる学びは大学生だから得られるものだと感じた。こればかりは実際に体験しなければわからないことである。後輩の皆さんには人と人とのつながりが薄れている今だからこそ、ボランティア活動を通して知らなかった世界を覗いてほしいと思う。



菊池市佐野地区の風景

「地方創生カフェ通信 Vol.1」

2021年3月印刷

熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

熊本大学熊本創生推進機構地域連携部門

電話：096-342-3464

メール：coc-plus@jimu.kumamoto-u.ac.jp



Twitter



Instagram



Facebook